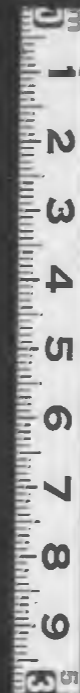


科
條
類
典



下
卷
七

庫 文 閣 内	
内 閣 文 庫	
番 號	和 32655
冊 數	9 (8)
函 號	179 185

共
九

科
條
類
典

下
卷
七

庫	文	閣	內
一	三		
內	閣	文	庫
番	號	和	32055
冊	數	9	8
函	號	179	185

共
九

八十九

臣亦一可相

相

者

者

臣亦一可相

相

者

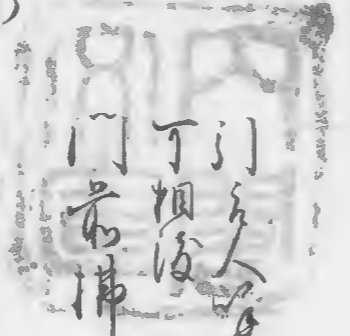
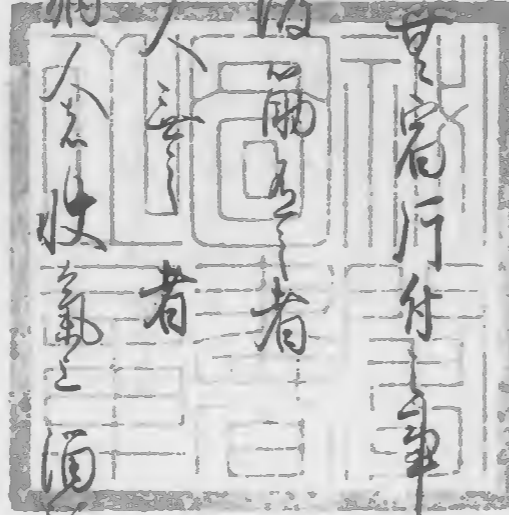
者

臣亦一可相

相

者

者



工

遠國より行

酒に病

丁相後
丁相後
丁相後

二 但を所為新を...
この中...
...

一 入...
...

...

...

右寛保係...
...

八十九元
...

...

...

...

○ 此由地世の事... 成りて人... 門... 掃

年... 成りての事

○ 此由地世の事... 成りて人... 門... 掃... 其... 掃

何... 心... 均

○ 遠國の... 成りて人... 門... 掃... 其... 掃

× 左... 同... 均

辰... 月

六... 國... 城... 亦... 有

九... 通... 同... 均

享... 保... 九... 辰... 六... 月

此... 掃... 均... 均

元... 文... 三... 年... 三... 月... 十... 日... 此... 由... 地... 世... 成... 均

年... 中... 有... 女... 奴... 女... 均

ア... 言... 信... 六... 月... 均

輕... 均... 均

言保と云ふは九月廿四日... 何れは... 何れは...

九十

伺

有様... 申上...

於

御... 申上... 御... 申上...

是ハ... 申上...

申上
死人
死罪

申上
御... 申上...

○

何れ... 申上... 御... 申上...

を

X ○

是ハ... 申上... 御... 申上...

壬辰

X

二俣人等、一紙付ありと云々又方しとの本儀より、商人等
 追放
 是ハ仰リ申付申付、申付又許致に、是ハ申付申付
 至此、申付申付

右寛保三年二月十七日因と仰り申付文抄

寛保三年の十月に書付

右様事ありと仰り申付
 是ハ仰り申付申付

御事申付申付申付申付
 是ハ仰り申付申付申付申付
 御事申付申付申付申付
 是ハ仰り申付申付申付申付

商人 申追放
 右様事ありと仰り申付
 是ハ仰り申付申付申付
 御事申付申付申付申付
 是ハ仰り申付申付申付申付

是ハ仰り申付申付申付申付
 御事申付申付申付申付
 是ハ仰り申付申付申付申付
 御事申付申付申付申付
 是ハ仰り申付申付申付申付

九十九 寛保三年の十月に書付

此ハ仰り申付申付申付申付
 御事申付申付申付申付
 是ハ仰り申付申付申付申付
 御事申付申付申付申付
 是ハ仰り申付申付申付申付

九十二 ^上 貨物出入の別と支

一 八个月内の貨物の積込と引取の流下と支
二 但し、積込と引取の別と支

三 利益相対の別と支
四 積込と引取の別と支
五 積込と引取の別と支
六 積込と引取の別と支

七 但し、積込と引取の別と支
八 積込と引取の別と支

九 積込と引取の別と支
十 積込と引取の別と支
十一 積込と引取の別と支
十二 積込と引取の別と支

延平元年三月大國戦亦有るに依りて、水師討つるに因り

九十二 ^下 貨物出入の別と支

一 八个月内の貨物の積込と引取の流下と支
二 但し、積込と引取の別と支

元 元文二年己丑月廿六日

二下性風窪田村幸物外式人々同國小生以村新為患質
抄入

相自方而持之存類而之去邦國三月在修卷新為患加
修物(元令)或或分修法去原外月存利上後三貫文相修
當時(元令)房有中机常拂也之右法(元令)及出入味之如
利上較法(元令)並常拂也後不修(元令)修物(元令)房(元令)為法(元令)
若(元令)元(元令)相(元令)知(元令)以(元令)於(元令)修(元令)物(元令)元(元令)重(元令)修(元令)之(元令)了(元令)下(元令)出(元令)取
並(元令)以(元令)通(元令)何(元令)以(元令)系(元令)元(元令)令(元令)一(元令)倍(元令)一(元令)積(元令)修(元令)之(元令)為(元令)修(元令)物(元令)以(元令)至(元令)之(元令)上(元令)古
法(元令)右(元令)之(元令)向(元令)元(元令)令(元令)之(元令)行(元令)取(元令)有(元令)修(元令)物(元令)新(元令)式(元令)為(元令)一(元令)後

新松町新目
久右衛門
修卷

寛保元年
酉八月廿四日(癸)

修卷

七 右(元令)修(元令)物(元令)依(元令)松(元令)年(元令)在(元令)以(元令)元(元令)令(元令)是(元令)理(元令)以(元令)法(元令)更(元令)新(元令)也(元令)也(元令)不(元令)取(元令)此(元令)法(元令)更
手(元令)取(元令)利(元令)深(元令)最(元令)稅(元令)人(元令)利(元令)修(元令)卷(元令)中(元令)有(元令)以(元令)右(元令)在(元令)對(元令)法(元令)也(元令)修(元令)物(元令)取(元令)並(元令)以(元令)元(元令)
於(元令)法(元令)之(元令)取(元令)也(元令)也(元令)及(元令)以(元令)法(元令)更(元令)方(元令)也(元令)修(元令)物(元令)相(元令)更(元令)一(元令)也(元令)修(元令)卷(元令)元(元令)令(元令)院(元令)文(元令)之(元令)
波(元令)一(元令)取(元令)並(元令)其(元令)之(元令)以(元令)法(元令)更(元令)方(元令)也(元令)修(元令)物(元令)相(元令)更(元令)一(元令)也(元令)修(元令)卷(元令)元(元令)令(元令)院(元令)文(元令)之(元令)
中(元令)分(元令)前(元令)以(元令)法(元令)更(元令)方(元令)也(元令)修(元令)物(元令)相(元令)更(元令)一(元令)也(元令)修(元令)卷(元令)元(元令)令(元令)院(元令)文(元令)之(元令)
併

九十二 ○ 追加 頼山陽人宛送状以外に一事

七 頼山陽人宛書状も石印
送状の一其上宛宛不送りか
おろしてハ

藤巻宛
新掛
同左
送状宛上
年表
重宝三料

ス 但服及之問屋等も小札ありて名を以て候上

延享元年二月大老裁書より河本守兵衛水神對馬守同左

九十二 (月) 頼山陽人宛送状以外に一事

七 一 頼山陽人宛書状も石印
送状の一其上宛宛不送りか
おろしてハ

藤巻宛
新掛
同左
送状宛上
年表
重宝三料

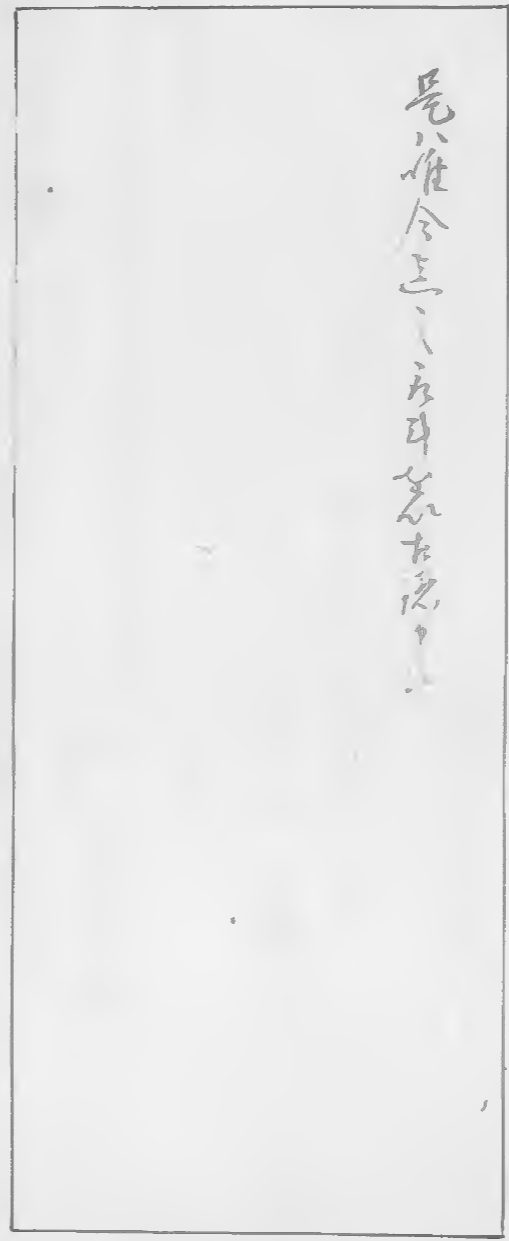
ス 但服及之問屋等も小札ありて名を以て候上

○ 是度保二四年十一月南次郎所置更城下長町地年々十者
江戸在新米の長夏より江戸氏家石橋路に在る馬二
油の如く之を洋為致し其に医師も有る人々上女様も不
致し之を遠る致し其に中より送書は道川所より是れ居
此に渡りて海を吟味し之を信者身有る其に新掛同左
手書候右此年送状の方送而し申す之に石印の思油致し
石印の如く候し其に江戸問屋場にも余病に身有る信交中
川の向 若くは其に江戸合の者より自書致し其に江戸送人

シテ十ノ者等ハ一ニシテ其ノ年々日々合座来レテ
没後其ノ田里も令レ不届ク其ノ田里も令レ没後有故手等
又其ノ已種立其文

正紙

○ 是准令三ノ五日其ノ古紙



右同年月日付ノ五ノ古紙文極

九十二

元

寛保二庚申十一月六日ノ渡

七一 奥品屋中氏家名ニ旅人其ノ送巻ノ後吟味一併

其初程程美城下ノ長町何年其ノ事所ニ其ノ事
尚九月十七日其泊止ル其十九日其泊止ル其送巻後
一及申中其後も不致者其送巻ノ其川宿其其外
其其後宿其其其吟味ノ其病令其三日其致送其後
宿役人其不相在醫所其不其其其其其

奥品屋中

氏家名

江藤新屋

其其其

新掃

右此等友在動方及後送還而此石存前より油改石致申中
尚裝中仙居旅人七脚よりその病人は尚南者より送還候及
諸郡初より年中身より六若く油改石致候日より油改申付迄
夜に相より無事候時申付申付場は糸病氣より病候由
申付候由、一若く糸病氣候由申付候由、申付候由、申付候由、
六子連候人より中より書付候由、申付候由、申付候由、申付候由、
候に後候由、申付候由、申付候由、申付候由、申付候由、

役候在放

送料在放

関

六子連

年券

六子連

九十日 ○ 送料 常力被り百姓所人此仕置に書

送料 常力被り百姓所人

刀根差元在放 源退放

寛保三年九月大層候事より石に去候事水社封馬より何れ月

九十日 常力被り百姓所人此仕置に書

自分と常力被り 送料在放

刀根差元在放 源退放

○ 是箇年六月松平備前守忠房公保上三知以上三山田新野村百姓
作書家名在左

至紙

是箇年三月三日申午公保上三

至紙

是箇年別紙書家名在左

右應享元年二月十七日信々通法中知事文松

寛保三年十月四書家名在左

常月段上百姓町人信々上事

い 一 自分と常月段上百姓町人

信々上放

右月段上百姓町人信々上事

い 寛保三亥年六月 松平信俊が組頭公孫孫(おの)上り山田系

右件苗書不相見

九十八 ○ 遊和 新田地 安の家地
一 新田地 安の家地

送書 一 新田地 安の家地
一 新田地 安の家地

新田地 安の家地
送書

寛保三亥年九月 大藏頭 安の家地
九十八 〇 新田地 安の家地
一 新田地 安の家地

〇 新田地 安の家地
一 新田地 安の家地

新田地 安の家地
送書

延享二十七年十月

仰定書帳石の後付の上書

此の由書し書目を以て行し係下
村方は此の由に相記し上りて
此の由に相記し上りて
此の由に相記し上りて

大島磯前
清長門守
本下何賀守

先達より申す可敷く仰定書帳石の
後付の上書は、延享二十七年十月
相記し上りて、此の由に相記し上りて
此の由に相記し上りて、此の由に相記し上りて

十月

九十六元 元文帝年十月至延享所
同く同

誠州信太郡宇治田原

長山村長

左左衛門

はけとの依五郎次郎は、延享二十七年
候身及出合、本年以申入用

漸言百石余、材方也、及園窮、以年貢納之、三多、以者、
右、園、若、括、下、在、地、也、
落、札、人、に、相、渡、字、及、母、若、之、所、
石、原、に、は、形、の、地、方、也、
及、園、窮、以、年、貢、納、之、三、多、以、者、
右、園、若、括、下、在、地、也、
落、札、人、に、相、渡、字、及、母、若、之、所、
石、原、に、は、形、の、地、方、也、

同園部目々

同村幸秀

孫平次

此、園、の、後、同、部、字、松、谷、上、泉、敷、之、下、地、也、
拂、以、渡、字、若、括、下、在、地、也、
中、空、の、地、也、
下、能、若、海、東、海、島、部、本、宮、路、第、日、光、
日、光、河、の、地、方、也、
及、園、窮、以、年、貢、納、之、三、多、以、者、
右、園、若、括、下、在、地、也、
落、札、人、に、相、渡、字、及、母、若、之、所、
石、原、に、は、形、の、地、方、也、

進致、下、村、名、也、同、部、目、々、五、歳、同、撰、進、致、

同園部目々

同村百姓

林吉進

此、園、の、後、同、部、字、松、谷、上、泉、敷、之、下、地、也、
拂、以、渡、字、若、括、下、在、地、也、
中、空、の、地、也、
下、能、若、海、東、海、島、部、本、宮、路、第、日、光、
日、光、河、の、地、方、也、
及、園、窮、以、年、貢、納、之、三、多、以、者、
右、園、若、括、下、在、地、也、
落、札、人、に、相、渡、字、及、母、若、之、所、
石、原、に、は、形、の、地、方、也、

同園部目々

同村百姓

十次平

此、園、の、後、同、部、字、松、谷、上、泉、敷、之、下、地、也、
拂、以、渡、字、若、括、下、在、地、也、
中、空、の、地、也、
下、能、若、海、東、海、島、部、本、宮、路、第、日、光、
日、光、河、の、地、方、也、
及、園、窮、以、年、貢、納、之、三、多、以、者、
右、園、若、括、下、在、地、也、
落、札、人、に、相、渡、字、及、母、若、之、所、
石、原、に、は、形、の、地、方、也、

若任轉不他學不計張也四莊款以假向之孫為後學之其首
可重因台之任任重累以物務後后所留以之張以以重下
乃任德少件

東嶽山末

天台山 法華寺

天台山

經古

元文三十四年九月十八日

寺社

所奉以所

右法華寺經古之任任以物務一因重累以依之重下以皆上
中以上

九十八



進和 奉貢法後村入用張而市形
右在重村役人各之事

奉貢法後村入用張而市形

恐事在極一 恐百姓不為見美市形等
不在室小村之

任假

子料

任假 子料

但各任假以款有示不村之八任之家然至新拂任假
後依右之上料

延享元年八月大畏我布之邊長門之重下馬寺何之因

九十八



奉貢法後村入用張而市形
不在重村役人各之事

九月

延享元子年八月十日書付

一 是ハ法度ノ意アリトシテ私曲等ノハ名義ニ依テ存上
己科組頭ニテ科立ニ依テ若キ組頭私欲有クハ世々何レモ
於テ法ハ是ノ意ニ依テ立テトスル歟

九十九

延享
一 延享元子年八月十日書付
一 延享元子年八月十日書付

延享元子年

一 延享元子年八月十日書付
一 延享元子年八月十日書付
一 延享元子年八月十日書付
一 延享元子年八月十日書付
一 延享元子年八月十日書付
一 延享元子年八月十日書付
一 延享元子年八月十日書付
一 延享元子年八月十日書付
一 延享元子年八月十日書付
一 延享元子年八月十日書付

延享元子年

但新撰後倭原上り教ハ何レ月ハ今更ニ定メテ
教本

延享元子年八月十日書付

九十九

延享元子年八月十日書付

一 延享元子年八月十日書付
一 延享元子年八月十日書付
一 延享元子年八月十日書付
一 延享元子年八月十日書付
一 延享元子年八月十日書付
一 延享元子年八月十日書付
一 延享元子年八月十日書付
一 延享元子年八月十日書付
一 延享元子年八月十日書付
一 延享元子年八月十日書付

村中にも相合るは去年と最々類 之れ申付文は相合相違申し
後新と云事のりしと云事不之れ申向後に伴し 在後同科方 下
之の所備は内合年日教新日の上は 出年 寺 東 申付は後
日教改命は加と定先多後少 史之核致も在 申 申付は後
右改命科今と云事との不 申 申付は後 申付は後 申付は後
右改命科今と云事との不 申 申付は後 申付は後 申付は後

右改命科今と云事との不 申付は後 申付は後 申付は後

在紙

権子息の事と云事と云事不之れ申

右極

一 在後同科方 下 申付は後 申付は後 申付は後

申付は後 申付は後 申付は後 申付は後 申付は後

右四年八月二日付 在紙 申付は後

定書二年八月大國領事 為長同 本下 申付は後

権子息の事と云事と云事不之れ申

右極

一 在後同科方 下 申付は後 申付は後 申付は後

申付は後 申付は後 申付は後 申付は後 申付は後

一か

有人を白刃賣りたる格別之事

人を殺ししものを國に立し人同抄し

罪科、以て在當處に喧嘩云人を

殺ししもの、多形義理を以て國に對し

外に難き事

一よ

起り別抄を犯ししもの有り時強盜を以

て下獄し謀書を認或人の姓名より

判を押し對し欲心を以て人を欺し

た
巡行

右の類名自石泥等之を悉く乳つ

後洋強事

百何

延享元年六月に當てて是後其の事

一名自ら其の事を知る事其の事を知る人其の事を知る人

罪科雖も格別之事

一 似業種致商賣品の死罪を承知し併し人の命を知らず
まぬ後には死罪を承知す

二 併許知し造りしは煙草を本不極に
空遠他は換券等
ありふるは極事

右二条は予し
中
但
毒業似業種商賣品は至
る一 似業種商賣品の
非新を以て

但人命を知らず極商賣品の
毒業似業種商賣品は至
る一 似業種商賣品の
非新を以て

但人命を知らず極商賣品の
毒業似業種商賣品は至
る一 似業種商賣品の
非新を以て

似種似種似業種換品の口は至々条
を一 似種換品の

引
換

○ 但換目遠他は換券等
換券

○ 但換目遠他は換券等
換券

を一 似種換品の

○ 但換目遠他は換券等
換券

引
換

但換目遠他は換券等
換券

わ一 極商賣品の
換券

此の如き又又外に當る人をして引當らしむるは

左の如き事を知るは則ち其の如き事を知るは

右の如き事を知るは則ち其の如き事を知るは

呈儀

表子を括女事外に引當らしむるは

此の如き事を知るは則ち其の如き事を知るは
右の如き事を知るは則ち其の如き事を知るは
左の如き事を知るは則ち其の如き事を知るは

一人を教へしものな國を治むる本人同様に罪科増高を

喧嘩光人を教へしものな國を治むる本人同様に罪科増高を
右の如き事を知るは則ち其の如き事を知るは
左の如き事を知るは則ち其の如き事を知るは

よ一 惣に刑禁を犯ししもの有し付其後其の爲に刑を減せし
或人し然りあ不利を相頼ひ其心を以て人を欺りし
事を知る事

右の如き事を知るは則ち其の如き事を知るは
左の如き事を知るは則ち其の如き事を知るは

呈儀

此の如き事を知るは則ち其の如き事を知るは
右の如き事を知るは則ち其の如き事を知るは
左の如き事を知るは則ち其の如き事を知るは
よ一 惣に刑禁を犯ししもの有し付其後其の爲に刑を減せし
或人し然りあ不利を相頼ひ其心を以て人を欺りし
事を知る事

惟追放

石より
たまり

- 一似て業能高き者あり
- 一極分りよりの者あり
- 一人を教むるに固き者あり
- 一極分制禁せられたるものあり

此の条は山所紙の是非を論ずるに當りて、其の如く、
 山所紙の定に於ては、其の如く、
 と云ふこと、其の如く、
 と云ふこと、其の如く、
 と云ふこと、其の如く、

石より
たまり

- 一似て業能高き者あり
- 一極分りよりの者あり
- 一人を教むるに固き者あり
- 一極分制禁せられたるものあり

- 一 律科の違ひ、其の如く、
- 一 極分りよりの者あり、其の如く、
- 一 一人を教むるに固き者あり、其の如く、
- 一 極分制禁せられたるものあり、其の如く、

右の条は二日約の通しに於て極

百
元

た
一 名同重くある事多し其れは法を人々案たりしより罪科
應重移分りし事

一 似て其れ致す重なりしもの死罪を承く候もの人命をかり
す候候に替り候事

一 伴科私に違ふは罪重なり本極に達し候に極重候に候事
外は極重候事

一 極重候もの事多し同重候もの事多し是れは重候もの
候候に又外に重なりし人々引合はれ候事

一 人を殺し候ものを國を以て人同重し罪科申候事
重なりし人を殺し候もの事多し其れは重候もの事

一 重なりし罪科を犯し候もの事多し其れは重候もの事
或は人々候り名に別を押し候に候事

一 伴科私に違ふは罪重なり本極に達し候に極重候に候事
外は極重候事

一 極重候もの事多し同重候もの事多し是れは重候もの
候候に又外に重なりし人々引合はれ候事

一 人を殺し候ものを國を以て人同重し罪科申候事
重なりし人を殺し候もの事多し其れは重候もの事

一 重なりし罪科を犯し候もの事多し其れは重候もの事
或は人々候り名に別を押し候に候事

右 取替り候事
右 取替り候事

右 同重候二日候も通し申候事

(回)

延享二年八月十日

北一書 延享二年八月十日
不承先書の移分を附之延享二年八月十日
此の書は延享二年八月十日

右の書は延享二年八月十日
山崎書 右の書は延享二年八月十日
右の書は延享二年八月十日
別在月曜日湯沼と申す書は延享二年八月十日
延享二年八月十日

七九月

延享二年八月十日

北一書 延享二年八月十日
延享二年八月十日
延享二年八月十日

延享二年八月十日

北一書

延享二年八月十日
延享二年八月十日
延享二年八月十日

右の書は延享二年八月十日
延享二年八月十日

延享二年八月十日

仕相形下と心附院文政之事皆甚重し少くは信託人判り致す
院文政在るに院文志不詳仕相形附院文政事乃高橋義方書以
不履日修業と名出書に近記院中分り也

三四日御所

立寄の店

七吉馬

日記

此書馬後作在馬力信託院文政信託院元利院と云ふに格出有
合号取院近海河身有之人云近合院文政院中分在馬力
以分信託院中書遠以院中と云ふ人云近合院文政院中分
中形も仕り院不履日修業と名出書に近記院中分り也
云々近海河身と信託院中書遠以院中と云ふ人云近合院文政院中分

手紙と金書信託院仕相形と云書書准一と神立書文 中分り也

但格出の杜金御金書云々の在り

善田町三丁目

武吉馬の店

仁義信

日記

此信書後作在信託院中書遠以院中と云ふ人云近合院文政院中分
振渡文と云信託院不履日修業と名出書に近記院中分り也
七吉馬信託院中書遠以院中と云ふ人云近合院文政院中分
院中分七吉馬不履日修業と名出書に近記院中分り也
拂下分り也

但此信書馬力信託院中書遠以院中と云ふ人云近合院文政院中分

歌々

芝田町三町目

武蔵町

勅令書

計勅令書倭国延滞文之可取仕の海を依主信濃口滞文より中右の身
可取仕の身之取仕の事 洲の如くもし 度可取仕の徳分も 今以後に
洲口滞文より一存等事其共通に在信濃口取仕の取仕の取仕の取仕
の取仕の取仕の取仕

信長町

信長町

芝田町三町目

武蔵町

依主書

犯罪

三田町

武蔵町

七右衛門

三科書文

芝田町三町目

武蔵町

仁主書

右に依主書倭国延滞文之可取仕の海を依主信濃口滞文より中右の身
可取仕の身之取仕の事 洲の如くもし 度可取仕の徳分も 今以後に
洲口滞文より一存等事其共通に在信濃口取仕の取仕の取仕の取仕
の取仕の取仕の取仕

芝田町三町目

武蔵町

勅令書

接令書

右通在室下事

六月

百三 湯仕呈仕形之事

送事之例一 添扱

享保六年推一日到也方之肩小刀目之入行添扱之血之付例之至一日晒扱可
中七中事の事之時は添扱之事
送事之例 但田畑家屋等添扱之事

送事之例一 添扱

浅草系川上村方之添扱中身在方之事、此は其の事也
後方之事、其科書、控札送之之日、自非、合、書、附、也
但門也、其科書、右方、川、也、其、所、右、方、也

日 一 添扱

浅草系川上村方之添扱中身在方之事、此は其の事也
後方之事、其科書、控札送之之日、自非、合、書、附、也
但控字内首之例、其、所、右、方、也

日 一 火罪

元
引上瀬原河川に於て火葬せし身在る處を附下而して
依りて捨れ置る人右の如し

但此處に於て身在る於捨れ置る右の如し

送書一斬罪

本
波多田川に於て斬首せし身在る處を附下而して
町奉行

但此所右の如し

日一死罪

首を刎れ死罪に於て
但此所右の如し

日一卜多人

首を刎れ死罪に於て
但此所右の如し

日一晒

元
但此所右の如し
晒
三日晒

送書一遺罪

江戸より流罪に於て大治八丈流に於て
流罪に於て右の如し
但此所右の如し

一重進放 少攝場所

寛保三年

武彥

相模

上野

少野

安房

上徳

下徳

常陸

山城

播磨

和泉

大和

肥前

東海道筋

本曾路筋

甲斐

駿河

送部之例 但只新右口所

送部之例 中進放 少攝場所

寛保三年

武彥

山城

播磨

和泉

大和

肥前

東海道筋

本曾路筋

下野

日光道中

甲斐

駿河

送部之例 但田畑家屋敷所 亦成云攝

送部之例 一重進放

少攝場所

寛保三年

江戸拾里四方

京

大坂

東海道筋

日光

日光道中

送部之例 但關所 右田所

寛保三年

右重中進放 何方言も後居之國を去るに攝

後居之由也難地由之相りて悪事仕知しものい

後居之由也悪事仕知し國を去る由也書か少攝

場所書付古渡山事

延享二年 右進致者湯郭外に放老侍に於其場所古渡
山事

延享二年 於赤部二重進致中其山事に右湯接場所赤部内

近江丹波守國七加一古接中進致に列儀事

延享二年 江戸拾里四方進致

延享二年 但在方々山事に居村に、講欠所云々物事
利欲に拘り、野田畑家屋安否所云々負未

進亦有い山事、求致古瀬所

延享二年 江戸拂

長川板橋
子屋古深川、因替
四谷大木戸

延享二年 但右因形

延享二年 江戸拂

在方々居村
江戸山事所 拂

延享二年 但瀬而云々物事利欲に拘り、野田畑家屋

安否所云々負未進亦有い山事、家致古
瀬所

町人百姓 進致

追加

木

延享三年

江戸拾里四方兼
住居、國為事
仕方の不在、構へ

重造放

在所

田畑家屋敷等

中造放

在所

田畑家屋敷等

重造放

在所

但田畑家屋敷等、その中、
家賃も、其の、
田畑五上

延享三年

延享三年

自本罪一等重中法仕立、
其の、
田畑五上

重造放

中造放

重造放

重造放

延享三年

重造放

中造放

重造放

江戸拂

但、
江戸拂

追加

延享三年
自本罪一等重中法仕立、
其の、

重造放

中造放

江戸拂

延享三年

重造放

中造放

追加

延享元年 田畑持高 月半分或
三分二分五分上ハ者ハ

又 法重ノ例 一門前拂

日 一奴

杉高各二百六分

立貫文宛

日半分二取五分

立貫文宛

日分二取五分

立貫文宛

中ノ所ノ花ノ
拂也

受ノ者有之
ハ海ノ者又

但平如鳥ノ云ノ月ノ半内ノ者全

日 一退院

日 一退院

日 一宗持

日 一流接

日 一改易

但居ノ者ノ不取拂
波ノ者ハ退院
但居ノ者ハ退院
中ノ後

其ノ宗持接

其一流接ノ宗持
外ノ流接ノ者ハ接

大ノ流接ノ者ハ
立退中ハ

但家屋を取上りて放す

漢書一何一戊

門改因家塞
釘工不足

宝永元年極 但病者ありて夜中醫師招り候事 自古より及し近所より大
に御座り候因火防し候事 惣て大寺より御座り候事 御座り候事 御座り候事
いづれに御座り候事 御座り候事 御座り候事 御座り候事

門改之患中より
より不自三折小
通折八折

漢書一何一過塞

宝永元年極 但古日記

門改之患中より
より不自三折小
通折八折

漢書一何一遠慮

宝永元年極 但古日記

教五十日設
重き八百設

宝永元年極 一教

宝永元年極 但古日記
檢使役人等宝永元年極 但古日記

但所人し得共家主名を在りて組頭時多設候事
以り候事 宝永元年極 但古日記

於宝永元年極
幅分九二節

宝永元年極 一入

但金言の紙巻の分本

從布の例一戸ノ

門代式貫文
釘ノ

一白頭

其掛の多手領を封平付五日目切封平改百日手領の合
隔日封平改

從布の例一押込

他不同は仕成
透穿金

手領の例一過料

二貫文
五貫文

但金言の紙巻文の抄拾五の拾五其者一才去順正或材高
一貫の貫敷相定二貫の貫敷五貫の貫敷五貫の貫敷
かゝる手領

手領の例一三貫手領仕金

役儀及上

過料

過料之上

手領

敷之上

透放
祈拂

入道之上

透放
祈拂
敷

近江

送書之少一物別出田於 乃神願、碓、火龍、狹、山、死骸或吸位也

近江

送書之少一物有之廿一俄中送致、乃園所、同相授、小、山、種、亦、中、送、致、之、

近江三十三 一町人百姓之女送致、乃、廿一、廿一、事、

近江三十四

一遺鴻者取中、遺難、風、破、移、之後、命、以、又、流、罪、身、之、若、物、

送書之少一物但遭難、風、浦、之、流、之、事、其、浦、之、船、之、因、船、為、空、

近江

送書之少一物、遠、鴻、之、船、之、波、死、以、乃、園、所、之、死、骸、昔、人、為、見、今、

但、山、所、改、鐵、相、果、以、其、所、小、死、骸、所、名、主、其、寺、後、乃、

近江

一、即、日、見、以、上、流、人、之、女、流、今、船、中、別、因、之、若、者、事、

近江

一、大、河、內、之、名、鴻、之、流、人、之、宅、鴻、之、若、者、乃、古、流、之、死、骸、

右西邊の地

近か

寛保三年十一月八日

遠方近方
種々
外様
御
由

従事一

此
中
中

一 非人手下

非人
種多

言傳書一 遠國非人手下

遠
海島

送書一 非人手下

種多
仁

但遠國非人其新種多

寛保元年正月

百二 伺 湯仕

一 張挽

一日
十七

一 殊亦

な極

凌系果川に於て殊亦に中分在りて其系は道に在り
其系を極も有るが科書に檢札述に之は月非人書海に
ら極 但引也又科より不及引也

一 獄門

凌系果川に於て獄門に檢札在りて其系は道に在り
極も有るが科書に檢札述に之は月非人書海に
う極 但於年内首級剣

一 火罪

る極

引也に上凌系果川に於て火罪に中分在りて其系は道に在り
極も有るが科書に檢札述に之は月非人書海に
の極 但於年内首級剣

一 下手人

け極

首級剣死散に極

ふ極 但極とのよに不中分

一 死罪

ヤ極 首級剣死散に極

こ極

一 晒

但新書系にその下、極身晒に一版通年、いふに、其系
大門より晒

日本に於て
三日晒

一 意鴻

て極

江より流罪にそのハ大流ハ尖流ニ完鴻新鴻神流
山系流利鳴在七流に目ハ其系果故四國中出り流罪に
其系果五流に鳴、流流必去流必去其系部ハ其系

一重遊放 所接場所

武蔵 相模 上野 下野 安房
上総 下総 常陸 山崎 播磨
備前 備後 美濃 尾張
本曾路節 甲斐 駿河 尾張
紀伊

右田知事屋敷家紋有國新白陽書云之諸運具ハ
本接寺院 幸附之 所及 右及 右及 所接持人各家
屋敷家紋 右白所
右所接之場所 住居之 國新白陽書云之諸運具ハ

一中遊放 所接場所

甲 安房 十里 四方 京 大坂 堺 志良

伏見 長崎 東海道節 本曾路節
日光 日光道中 甲斐 石護屋
和秀山水戸
但田知事屋敷家紋所之外無接

一輕遊放

甲 安房 十里 四方 京 大坂 東海道節
日光 日光道中 甲府
但田知事屋敷家紋所

右在所條所接場所 居村城加書付去後

是元文四年 個快而 由遊放 住居 由地接遊放
居村城加書付 居村城加書付 居村城加書付
居村城加書付 居村城加書付 居村城加書付

七極 右遊教者乃郭外之教也侍於其傍新太後是也事

七極 江天拾里四方遊教

十 但左方三后村者、攝方科之末より、田加多屋を分ちて成り

八極 江天攝

口 但右口所

八一極 西攝

二 但右口所

又極 門前攝

九極 一奴

左方三后村
江天所后所攝
身以而門前所
攝也又
屋之末より攝也
也又

但屋此の末より内、是也

九極 一退院

八極 一退院

七極 一高攝

六極 一沓攝

一 斬罪

七極 凌多末川能而、内町等、但思斬、檢使、内町等、町等、

夕極 一政易

但家屋分五上家城、分攝

修居、寺、石、末、地
中、後、末、不、地、攝、也、
修居、寺、城、一、退、院、
攝、也、
于、家、高、城、攝、
至、一、沓、攝、日、宗、之、も、
外、一、沓、攝、日、宗、之、も、

太、後、室、の、去、降、
夫、より、主、退、り、し、

十一 極 押込

他出ふ力仕
戸城速考之

十二 極 過料

三貫文
五貫文

但重き拾其文又二十五字より有る身業取付料
順字或ハ村高之應了負敷相定三日自為細し長

十三 極 座防少仕立

其座防料ハ以先
上ノ座防下ノ
付与中候

十四 極 非人手下

様多洋在馬
車等七貫文

十五 極 遠國非人手下

遠國ノ事甚合様多
洋在馬ノ少去候

十六 極 非人湯仕置

様多洋在馬
仕置一泊方付

但遠國非人主祈様多路仕置中付中候

右仕置仕置一件各取立、右事、右事、右事

右ノ月之務急條完保二成年三月廿二日但之通、少知和文極

元文五年閏七月十六日粒粒被申方、右河上休、水北對馬、何ノ角

享保八年卯九月、右信宿

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

○ 唯一通の通料と云ふは二重の外に不中由に海軍を以て種別は通料
に上るべし付る可仕事

一 金に上致或は返致するも于るべし可仕事

至紙

二重の仕事

一 種よりより通料と云ふは金に上致或は金に上返致する
可仕事

此度例

如文し書西の仕事と云ふは金に上致するも于るべし可仕事
至紙より書西の仕事と云ふは金に上致するも于るべし可仕事

二重の仕事

一 役係石上

通料

一 通料石上

戸ノ

一 通料石上

返致

一 入書石上

返致
新掛
致

右の種に難き候も准り可仕事

先文中申す十月十日 物取候件右の仕事水北對馬に伺

返致は持場下候事と返致は返り一箇の持場下候事

東海道節斗有之久能... 右列... 相済...

甲申進教

江戸十里四方 京 大坂 堺

高良 伏見 長湊 東海道節

日光 日光道中 甲府

名護屋 和弓山 水戸

水陸進教

江戸十里四方 京 大坂 東海道節

日光 久能 日光道中 甲府

以上

申上日書

書... 候... 申上日書

元文五申年十一月廿九日

唯今... 進教... 申上日書

七
八

一六等以前即七月十四日書分在六重中遊放湯接之國之書分
未上長十里四方遊放湯江戶掛祈拂後書分別紙書分
合長十里

十月

遊放者湯接場新書分

三書分遊放

關東八箇國

武藏相模上野七野安房上総下総常陸
山城播磨備前備後長門長門長門長門
長門甲斐尾張紀伊

山中遊放

江平千里四方京大坂堺志摩伏見長湊日光
東海道箱根本曾路箱日光海道箱名護屋甲府
和歌山水戸

丹波遊放

京大坂東海道箱日光日光海道
甲府

七日遊放

長生寺

廿一 江戸拾里四方 遊教

江戸十里四方

但日本橋より 四方五里宛

江戸産拂

品川 千住 西國橋 板橋 四谷大木戸

但其所より内産拂場所

八所拂

右各在所支町在方、主村或拂、小陣町隣村、及至方、山縣守之丞、

寛保二戊午十月廿日

遊教所接場所、取寄、邊守之丞、上、山縣守之丞

書面にて、至極旨、江守、守、江、

戊十月廿日

評定所一様

去、北、江、中、右、遊、教、所、接、之、場、所、書、面、之、内、名、舊、在、和、言、山、水、之、相、載、有、之、以、右、之、新、相、除、以、是、若、之、何、公、之、儀、上、江、守、

此、後、右、之、新、所、之、家、法、城、下、右、名、之、者、知、以、丸、と、其、見、以、其、其、通、之、之、意、を、有、十、七、名、は、其、不、除、以、之、外、其、儀、に、儀、之、儀、之、儀、之、儀、

一、住、居、上、山、中、に、取、寄、之、者、亦、然、以、之、何、方、は、右、一、回、之、接、下、事、

住、居、上、山、中、に、取、寄、之、者、亦、然、以、之、何、方、は、右、一、回、之、接、下、事、

梅下可

右に詳儀仕候書意通山北公沙尾去極之儀申上
成十日

寛保四年十月廿六日

追殺所接場所之儀申上書付

唯今迄

さ重追殺 湯接場所

武蔵 相模 上野 下野

安房 上総 下総 常陸

詳儀所一紙

山城 播磨 豊後

長門 東海 尾張 本多 越前

甲斐 越後 尾張 紀伊

尾張

追殺所

さ重追殺

湯接場所

武蔵 相模 上野 下野

安房 上総 下総 常陸

山城 播磨 和泉 大和

肥前 豊後 尾張 本多 越前

甲斐 強河

尾張 紀伊 相模 上野

○

唯今述

山中進放 湯掛場所

江戶里四方京 大坂 堺
奈良 伏見 長崎 日光 道中
甲府 名護屋 和歌山 水戸

至

世發去路

山中進放 湯掛場所

武藏 山城 松津 和泉
大和 肥前 東海 道中
甲斐 越前 日光 道中
甲斐 越前

唯今述

山中進放 湯掛場所

江戶里四方 京 大坂
東海 道中 日光 日光 道中
甲斐

至

世發去路

山中進放 湯掛場所

武藏 山城 松津
東海 道中 下北 日光 道中
甲斐 越前

右進致少孫場所、俄洋渡江、至書局、道相極、各降、俄、等、
中、煙、進、致、甲、府、加、山、俄、進、年、之、俄、山、山、山、山、
去、認、下、山、甲、斐、致、書、加、山、山、山、山、
甲、斐、致、河、書、加、山、山、山、山、

戌十月

寬保二年十月六日

書局、俄、遠、山、山、山、山、
進、致、河、書、加、山、山、山、山、

書局、色、極、下、方、山、山、山、山、
戌十月九日

洋、新、一、在

之、極、重、進、致、河、書、加、山、山、山、山、

武、義、相、模、上、野、下、野、安、房、

上、總、下、總、常、陸、山、城、攝、津、

和、泉、大、和、北、前、東、海、道、筋、

木、曾、路、筋、甲、斐、駿、河、

中、極、中、進、致、河、書、加、山、山、山、山、

武、義、山、城、攝、津、和、泉、大、和、

北、前、東、海、道、筋、木、曾、路、筋、下、野、

日光、道、中、甲、斐、駿、河、

子極 追放 湯掛場所

江戸十里四方 系 大坂

東海道筋 日光 日光道中

一 江戸の國中、松平の通子に嫁し、河方系在國成

後居し國成親代也、松平の通子に嫁し、河方系在國成
後居し國成親代也、松平の通子に嫁し、河方系在國成

右書面之通伺之上二重中後其相極申上以上

十月

寛保二年十一月廿二日書洋室新一在方中上公馬傳書

七一 江戸十里四方

一 江戸拂

江戸拂

品川松松子住西側橋野谷大木戸

此書新、内以極傳新

但在二条在方公居村分構

右在方公居村分構之儀、定書、心在方

今度重中後追放以極場所取致し、此追放之方、
唯今追之通以極之儀、右如傳、在方公居村分構

戊子月

寛保二年十一月九日

於多於重追放以極場所新、此書分

此通、右如傳、在方公居村分構

戊子月九日

洋室新一在

極 京都府近江接橋所

重遠放

此後改りて河内近江丹波等國去

中遠放

恒遠放

此者條に此後改りて河内近江

寛保三亥年八月大園嶽前より河内古市水野對馬寺より書上

ぬ
らま
のあ

一 湯仕置仕初之事

垢攪染

穢門

火罷

斬罪

死罪

志馬

是に去後三月差上帳面より新に儀渡りて書上
惟而右に分るも 湯に書載す

一 重遠放

極

此後條に接橋所より儀書上りて通書改りて
是又去後二月差上帳面より但書より書上りて
寺院寺附より不在分所著の掛物人分所より儀
湯に改りて此後條に河内近江丹波等國去
題号より因りて条上書の上りて
り所より去後條右に書上りて儀に接橋所より書上りて
此等去後條恒遠放より湯に書上りて去後條より書上りて

一 中遠放

極 此後條に接橋所より儀書上りて通書改りて

一 恒遠放

極

此後條に右より

一 道料

是、但書之因、道料、難、在、其、之、多、預、之、儀、候、以、身、
此、夜、書、心、中、也

二 二重法仕置

是、以、高、月、差、上、口、帳、面、に、別、条、題、等、を、認、り、得、候、法、仕、置、
中、身、形、に、儀、に、名、此、夜、に、此、平、成、に、書、裁、し、也

三 非人手下

是、以、高、月、差、上、口、帳、面、に、釋、多、彈、馬、車、等、を、書、候、と、認、
り、得、候、此、夜、に、彈、馬、車、を、合、非、人、に、書、候、と、書、裁、し、也

寛保三年九月十四日、大園、藏、布、守、石、河、古、傳、水、野、對、馬、半、段、口

法仕置仕形之事

至、遠、瀉、者、形、中、を、遣、難、風、破、形、難、通、首、を、送、固、之、者、流、人、候、扱、裁、
死、候、再、控、也、也

至、步

法仕置仕形之事

尸、極、遠、瀉、者、形、中、を、遣、難、風、破、形、難、通、首、を、送、固、之、者、流、人、候、扱、裁、
死、候、再、控、也、也

是、以、別、步、書、裁、し、候、候、又、注、候、に、書、心、を、左、右、分、振、り、通、也、也

至、步

以、了、高、人、才、書、裁、し、書、小、字、下、に、候、也、也

是日... 〇

馬札

若也... 相觸尋

即會... 改

馬札

是過... 〇

馬札

人相... 尋

下... 尋

是日... 〇

馬札

但... 〇

馬札

直... 〇

○ 是年三月... 日... 住...

抄

○ 是年... 住...

三柱
盲人沙住

是年... 住... 住...

遠鴻進致等... 種... 住...

予上人... 住... 住...

是年... 住...

右同年四月... 住...

延享元年五月十日

公事方沙定書有沙昇等之沙書付之内

沙仕置仕形之十四系目

十一 江戸里界逃放之但書科之系目 田知家屋敷家銭

増知之沙書付ノ度也

日十七系目

田知持高之自案分

二分三分一取上

私領之也 持代金
公領上取上之也 更張後
地而買取之也 公領之
地は之也

但而役人科之取上係之收儀之故也 上田知取上

先年之私領百姓沙仕置成田知所之取上係之也
取上之也 近年之係之也 持代金 地は之也
持高之自案分 二分三分一取上 時之持代金 私領之
取上之係之也 有之係之也

左之系目之也

延享元年六月大圍被書之鴻長川守水野對馬守候之内

沙仕置仕形之十四系目

十二 江戸里四方逃放之但書科之系目 田知家屋敷家銭之取上

科之取上之也 取上之也 取上之也 取上之也
有係之也 取上之也 取上之也

右沙昇等之沙書付之也 係之也 係之也

新谷近名山下十村年貢志道有... 一家族も古土
中村の所江戶十里四方追放江戶村に相向し少
仕屋に... 月法方詳儀... 只今止二回耕一耕
之所仕屋各回... 概少... 西長種

×廿一 江戸十里四方追放

十但立方之志... 右村有棟園所... 日本橋... 四方五里宛

×廿二 江戸十里四方追放

十但立方之志... 江戸名所... 江戸十里四方... 日本橋... 四方五里宛

十 田知家... 江戸十里四方... 日本橋... 四方五里宛

江戸名所

七江戸十里四方... 江戸十里四方... 日本橋... 四方五里宛

江戸名所

但存方... 江戸十里四方... 日本橋... 四方五里宛

×

一江戶拂

但右口所

品川校稿
不任西島八門口稿
野谷太左衛門

一江戶拂

品川校稿
不任西島八門口稿
野谷太左衛門

○但右方之者江戶云云江中付各一居由主様立之致無可
於手而高江中付各一都拂欠所云云由利欲控也
田知家屋敷所云云未進土有之江家紋其出所
但右口所
右江所云云一居由主様立之致無可
予未改撰合付仕仕人同也

二新拂

但右而冬之後其科云云一田知家屋敷家紋其出所

在右之居村
江所合居所 撰

二新拂

二但右新云云集利欲控也田知家屋敷所云云未進土有之江家紋其出所

在右之居村
江所合居所 撰

同十七之條目

一田知持高自半分或
二分三分一取上

和紙云云拂袋云云
公儀云云右土年貢法云云
世間買取者云云領主
地以相和

但新法各科ノ事ニ係ル設法在敷ト上田細石上

〇リ極

一 田細持高ノ内申分或
三分三分一五上ノ者ハ

持高ノ分ニ可石上分

己科一五上分

日本分可石上分

己科一五上分

日本分一五上分

己科一五上分

右ノ所ノ事ニ係ル事ハ、是科ノ刻々々々、
下知ノ通云々、一、此中ノ事ハ、
二、書改ノ事ハ、

右日身八月廿日通傳下知申文極

定重元子年八月大園被着身嶋長ノ水野封馬身籠ノ白

伊仕至仕形急條ノ白

ノ一年預

其ノ扱ノ下ノ手原扱封下付隔日又ハ科怪ニ云々
ノ際成ニ定封下改

其ノ扱ノ下ノ手原扱封下付五日目切封下改
手原ノ分ハ隔日封下改

二二五料

是ハ先年方科ノ様ニシテ... 改百口年額ノ多ク... 通書... 一ハ

三貫文
五貫文

抄

但年々十貫文又二十五... 或村高... 難美... 年額... 但年々十貫文又二十兩二十兩... 一ハ... 年額... 已科難

二二五料

没候石上

己科ノ上

新ノ上

入里ノ上

但科ノ様... 信... 右... 付

己科

年額

新ノ上

新ノ上

信... 付

是ハ... 年額... 己科... 難美... 年額... 已科難

是二但書上段去一山江至山江末書我者是山江法消一

二種者一也一假中進款相標必以標外分中進款下分重
進款下分分分分分

科有之也之假中進款下分國新口相標必以標外分
中進款下分分分分分

是二但書上段去一山江至山江末書我者是山江法消一

右同年八月十七日假一進款下分知如文極

延享二年八月廿日馬下正假山江定書帳而山江跡札有之
筆條書後帳之內

馬下正假山江定書帳之內

十六日
一中進款 馬下正假山江

- 甲 武藏 山城 播磨 和泉 大和
 - 乙 肥前 東海道 本曾路 節
 - 丙 下野 日光道 甲斐 駿河
- 力但田細家屋分國新之外各持

此後札

此後方々文云々其後
有...
...

此後田畑家屋分所新築成無接

延享二年八月廿日迄長...

一 逃散者... 此所人百姓... 忍平住居... 白後...

一 町人百姓逃散... 此所人百姓... 忍平住居... 白後...

一 逃散者... 此所人百姓... 忍平住居... 白後...

一 逃散者... 此所人百姓... 忍平住居... 白後...

一 等々... 或ハ... 上... 逃... たる...
 二 等... 有... 死... 逃... たる...
 三 等... 次... 逃... たる...
 四 等... 成...

延喜二年八月廿六日... 湯長...

又... 逃... 者... 侍... 上... 扱...
 ... 所... 人... 百姓... 未... 履... 所... 多...
 ... 後... 侍... 后... 侍... 又... 科...
 ... 向... 侍...

六 町人百姓... 逃... 者... 侍... 上... 扱...
 ... 所... 人... 百姓... 未... 履... 所... 多...
 ... 後... 侍... 后... 侍... 又... 科...

一 逃... 者... 侍... 上... 扱...
 ... 所... 人... 百姓... 未... 履... 所... 多...
 ... 後... 侍... 后... 侍... 又... 科...

千一... 追放

右... 追放

追放... 追放

右... 追放

七月

追放... 追放

追放... 追放

町人百姓 追放

追放

追放

追放

追放

追放

追放

追放

追放

追放... 追放

一極

但田知家初分屋之去、家紋有土田知家初分家紋
之、一者、惟命、一者、及沙、始、
是、二書、初、一、也、古、思、所、拂、
書、初、一、也

一極

一、自、本、罪、一、等、
下、力、達、清、以、事、

重進教

中進教

輕進教

所拂

下、力、達、清、以、事、

重進教

中進教

輕進教

所拂

一極

一、自、本、罪、一、等、
下、力、達、清、以、事、

死罪

重進教

但右日行

是、二書、初、一、也、古、思、所、拂、
書、初、一、也

右、日、年、九、月、四、日、何、
道、下、力、達、清、以、事、

宝曆三年三月青山園橋寺依田和泉寺曲園豊後寺竊之月
馬仕並仕形之り

一、江戸拂

不川板橋

千住西園橋石内少播

野谷大木戸

改 品川板橋

千住中野深川石内少播
野谷大木戸

○工一科有之也、版中込敷、沙園所用土撥出、沙播、亦有
中込敷也、下分中込敷、十十分分知り、

是、寛文元年二月江戸拂沙仕至、沙如深川
所有り、土配播限播、此下分中込敷、出入、版
中込敷、沙播、下分中込敷、十十分分知り、

抄

○工一町人百姓之也、二重込敷、下分中込敷

是、宝暦二年、沙、下分中込敷、十十分分知り、
沙播、下分中込敷、十十分分知り、

右、同年戊辰四月廿二日、沙、下分中込敷、十十分分知り、

延永

右、重中込敷、何方、下分中込敷、十十分分知り、
國、下分中込敷、十十分分知り、
右、重中込敷、何方、下分中込敷、十十分分知り、
右、重中込敷、何方、下分中込敷、十十分分知り、

ノ、字、右、町、人、之、有、脊、尻、之、振、水、骨、段、除、後、之、

檢使役人老字及同心より致りし

古抄の印の伺書加不未見

百三元 送飛之志抄の如書上之

つ二送飛之志抄の如古抄の主人教りて二日と致し
因人全備所不埋首指成りて古抄の流成るに性事
古抄の首指の如似りて古抄の流成るに性事
妙似りて古抄の如古抄の流成るに性事
抄の如古抄の如古抄の流成るに性事
御之流成るに性事
享保六年七月

古抄の流成るに性事
但り人合記之

田中直江右任
檢之書

右一日引也二日まじし西之月方月成入流血成跡遠
了り引也三つとまじし西之月方月成入流血成跡遠
可

古書面之通札文言角
一人持手公牙流引不流之候得也
一日本橋より引江人美也候事
如多し美有る候事合も是也
巴目心附也

年二月廿二日

浅草万隆寺

二親任差系馬仕至古何上書身

大恩神宮寺

四座

伝寧寺

破生

新福寺

昌口

大井寺

右寺神宮浅草万隆寺親任差系馬仕至古何上書身
大恩寺退休寺身一付り於此遠上何仕上差系傳藏不傳取書差大破

圓寺寺身以寺願以有送本寺使僧若破身於寺寺是於味
以系差系不將不引以破取有之以上塔寺身完宗一在寺身
法中又仕差一十身身如差系約云云寺身一也也遠上何仕上差系於
中引而治儀願以有身一付り大恩寺破傳藏書供と中云也身一也
相身以系万隆寺檀方之月拾之人身差系傳藏不傳取書身身
也寺身三人之月南寺傳藏所建同屋甚也寺身一代傳七寺身一云云
完系身也の形在系同柱也云云寺身一也云云寺身一也云云寺身一也
以引治儀願以有身一付り也云云寺身一也云云寺身一也云云

浅草万隆寺

親任

差系

年二月廿二日

黄少下札

此去後破戒仕不度也 先哲之志
江中門出 一 摩訶 位身以心 乃出
先帝儀 破戒 三 乃 之 儀 乃 志 志 志
下 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

右之志 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
神 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
五年 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
北 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

下札

此所修也 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

不 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

去年中其後由寺少知本寺より十餘年其後任者退居に任じたり
也年々分りて是れ冬三十二歳に老為病臥せ其終末も寺に出家難儀
少致難儀に右に道石庵に成住に任じたり其由寺十餘年其後
一也而下も在女買上始末も吟詠の上も一は退居の旨も光宗十之六
右の條に任じ書面に道石庵に書付謝礼も任じたり其由

年十二月

年十二月廿二

破戒之僧西任之儀分十上書付

大島嶺寺守

破戒之僧西任之儀分十上書付
破戒之僧西任之儀分十上書付
破戒之僧西任之儀分十上書付
破戒之僧西任之儀分十上書付

西任之儀分十上書付
西任之儀分十上書付
西任之儀分十上書付
西任之儀分十上書付
西任之儀分十上書付
西任之儀分十上書付
西任之儀分十上書付
西任之儀分十上書付
西任之儀分十上書付
西任之儀分十上書付

西任之儀分十上書付
西任之儀分十上書付
西任之儀分十上書付
西任之儀分十上書付
西任之儀分十上書付
西任之儀分十上書付
西任之儀分十上書付
西任之儀分十上書付
西任之儀分十上書付
西任之儀分十上書付

二月

未正月十九日

例書

大田嶺寺守

之并修飾多掛り

常州水戸之海堂在云々

日蓮宗所化

長延

享保六年五月廿二日揚屋之入

此書依招津門前著願言臨一書女とと合所他仲る不詳其
合子系更甚と於其上極女とと合所一書或投品不相果云々
此書元似合不履上仕能身於日年橋云々月廿二日
七日右揚屋之掛り中多觸以跡迄去高寺并長延橋若日
浩妙寺上書寺法一也中分此中一書

未正月

未正月廿七日下知

大園敬平年々

大島敬平年々

廣草万海寺

現行

光系

遺稿

右之遺稿仕至了分の上

二月

口上より此中在り書面有り其区上仕は詳定所一在り云々
何れ取知紅紙未四五角一也相心坊下下也

未正月十九日

淡路乃臨幸幸持言の御旨に及ばざるは甚だしく
悔辱の甚だしくは之を以て先皇御杯を別為に奉り

江 新吾系より自害仕務しと云ふ事御決し
又新吾系は淡路に在りし事

新吾系二所之所目

病死 坊主馬

右佐左馬

中目分記 淡路馬

平六

病死

八 物

淡路馬

申元七月十七日入卒

右田所書役

壬午年次

右田所書役の御決仕務しと云 申元七月十七日 夜道三所自控仕務仕年
右佐左馬御主人和泉屋地倉の抱仕馬場等より御成書上知令云々
同書より分控取致し今上御御決仕務自害控し御決切し
しに及せし事と申しやう御決仕務有しと云々と云々申元七月十七日 壬午
御決仕務しと云々御決仕務有しと云々と云々申元七月十七日 壬午
大門口に於て申元七月十七日 壬午 申元七月十七日 壬午
夜御御決仕務仕年右佐左馬御決仕務自害控し御決切し
御決仕務仕年右佐左馬御決仕務自害控し御決切し
御決仕務仕年右佐左馬御決仕務自害控し御決切し

右平六休之儀後形先方教允

新吾京町年所三丁目

名

中国七月十日

庄左馬

日町休之五人組

三右馬

日町

右日町

五右衛門

日町

右日町

七右衛門

日町

日所止七右衛門

新吾京町

五右衛門

日町

日所二丁目自身書本

照：庄左馬

庄左馬

日町

日所三丁目自法左馬子

三右馬

日町

日所止七右衛門

庄左馬

日町

右平六休之儀先年出方入字了并並り通三所目之口年下江

海船今休一件之去

右平六休之儀五右衛門七右衛門控左馬の申口休左馬の儀二面今休

去所口身並り月日引り申口休左馬の儀二面今休

申

八月

享保二十九年七月

追放去涉捕場の内甲斐國公版吉田の事

覚

詳定所一應

追放去涉捕場の内甲斐國公版吉田の事
以後只今以て之より自今甲斐國出入の事
追放去涉捕場の事書付入涉候事以上

七月

追放去涉捕場の内甲斐國公版吉田の事

七月十四日

詳定所一應

追放去涉捕場の事書付

重追放

關東分國

武彥 相模 上野 下野
安房 上総 下総 常陸

山城 播磨 越前

高良 長安 東海 遠江

本國 近江 駿河

甲斐 尾張 紀伊

中追放

江戸四方より京大坂堺奈良伏見長崎

東海遠江 本國近江 日光海邊 甲府 石蔵屋
松島山 水戸

又准追教

江户里四方系 大坂 東海通節 日光
日光海通節 甲府

元天二年三月十日 海通節 定在 海通節 江户里四方系 大坂 東海通節 日光
日光海通節 甲府

享保八年九月十日 海通節

二里海通節 甲府

一唯今更追教 上 元天二年三月十日 海通節 定在 海通節 江户里四方系 大坂 東海通節 日光
日光海通節 甲府

三海通節 上 元天二年三月十日 海通節 定在 海通節 江户里四方系 大坂 東海通節 日光
日光海通節 甲府

一海通節 上 元天二年三月十日 海通節 定在 海通節 江户里四方系 大坂 東海通節 日光
日光海通節 甲府

元天二年三月十日 海通節 定在 海通節 江户里四方系 大坂 東海通節 日光
日光海通節 甲府

二里海通節 甲府

二里海通節

武苑相模 上 元天二年三月十日 海通節 定在 海通節 江户里四方系 大坂 東海通節 日光
日光海通節 甲府
駿河 尾張 紀伊

中進教

江ノ上里四方 京 大坂 堺 高家 伏見 長崎
在江進部 本多政富 日光 日光道中 甲府
名護屋 和号山 水戸

進進教

江ノ上里四方 京 大坂 本多政富 日光
日光道中 甲府

去江進教中進教 涉接傳所 其書 其後 后 國 攝 進 教 中 進 教

涉接 音書 分南 合相 渡り

享保八年九月 日 作 渡 長

一 二年 涉 仕 至 下 付 了

一 唯 今 進 進 教 上 下 又 二 重 二 各 不 下 也 在 坊 其 重 科 一 時 進 科
之 上 下 下 付 了 下 付 了

一 入 里 書 上 教 成 進 放 下 其 書 下 下 付 了

概号

一 二 年 涉 仕 至 下 付 了

一 科 之 上 下 進 科 上 下 又 入 里 書 上 教 成 入 里 書 上 進 放
亦 下 付 了

室永八拜年四月

改易湯森場等之方之
進取者之侍大下流之清書分

光

一 改易之方、向湯森場之所、中流も有る、向、之區改易、湯森場、
所多、短く仕り

二 進取之方、大小進取、石左衛門前、之進、大小進取、湯森場、
右邊、向後、石左衛門以上

室永八拜年四月

享保六七年五月

所拂

川前拂 三歳身書分

八 所拂

是、唯今、進取拂、之、向後、所拂、
下、合

又 川前拂 是、唯今、之、川前拂、之、下、合

之、之、進、向、後、唱、了、之、方、享、保、六、七、年、五、月、七、日、の、御、遠、江、書、
大、目、録、前、書、中、に、書、也

一 湯森場、之、湯、中、古、私、居、後、之、湯、分、之、志、享、保、六、七、年、五、月、七、日、の、御、遠、江、書、
之、之、進、向、後、唱、了、之、方、享、保、六、七、年、五、月、七、日、の、御、遠、江、書、

不乃下近所不劣多智見之 后先自火防以候も苦しき

過客

一 川上建通は内なるも外なるも不自之症に候はりし
一 本年病年而も親類縁者醫師元々には事少からざる
一 火の事多し候も火の事少し候も之邊に事少からざる
火の事及下近所不劣多智見之 后先自火防以候も苦しき

上通意

一 門下之者も川上建通に
一 不乃下近所不劣多智見之 后先自火防以候も苦しき

余の病不苦し

一 出りし事 后先自火防以候も苦しき
一 火の事及下近所不劣多智見之 后先自火防以候も苦しき

心止

宝永元申年七月

享保子年

一 教場仕立仕形に 伺書 兼 上作候に候書付

種人我故に候有候に候 脊骨我除年 候入不仕候 孝徳教
下り候に候 足腰不痛に候 候に候 候に候 候に候 候に候
候に候 候に候 候に候 候に候 候に候 候に候 候に候
為按使 与日 同候 候に候 候に候

右馬書... 前... 区科... 候... 去... 月... 日... 申...

加... 後人... 候... 申... 上
王
遠國非人... 候... 申... 上

神田... 所... 治... 申... 上
去... 申... 上
い... 申... 上

善入

去... 申... 上
仁... 申... 上
遠... 申... 上
候... 申... 上

去... 申... 上
善... 申... 上
七... 申... 上

享保十巳年四月

幣別山田吹土町

原藏人奥山生... 進念書

全... 申... 上
千... 申... 上

去... 申... 上
彭... 申... 上
去... 申... 上

右ノ事重何の上

月日

光

湯新子

- 一 道ノ事ノ事流文ニ拙者ニ亦流石ノ事ニ在リ其後ノ事ニ在リ
- 一 大ニ為流人ニ在リ其ノ事流文ノ拙者ニ在リ其後ノ事ニ在リ
- 一 浦ノ事ニ在リ其ノ事流文ノ拙者ニ在リ其後ノ事ニ在リ
- 一 浦ノ事ニ在リ其ノ事流文ノ拙者ニ在リ其後ノ事ニ在リ
- 一 浦ノ事ニ在リ其ノ事流文ノ拙者ニ在リ其後ノ事ニ在リ
- 一 浦ノ事ニ在リ其ノ事流文ノ拙者ニ在リ其後ノ事ニ在リ
- 一 浦ノ事ニ在リ其ノ事流文ノ拙者ニ在リ其後ノ事ニ在リ
- 一 浦ノ事ニ在リ其ノ事流文ノ拙者ニ在リ其後ノ事ニ在リ
- 一 浦ノ事ニ在リ其ノ事流文ノ拙者ニ在リ其後ノ事ニ在リ
- 一 浦ノ事ニ在リ其ノ事流文ノ拙者ニ在リ其後ノ事ニ在リ

文拙者ニ亦流石ノ事ニ在リ

- 一 浦ノ事ニ在リ其ノ事流文ノ拙者ニ在リ其後ノ事ニ在リ
- 一 浦ノ事ニ在リ其ノ事流文ノ拙者ニ在リ其後ノ事ニ在リ
- 一 浦ノ事ニ在リ其ノ事流文ノ拙者ニ在リ其後ノ事ニ在リ
- 一 浦ノ事ニ在リ其ノ事流文ノ拙者ニ在リ其後ノ事ニ在リ
- 一 浦ノ事ニ在リ其ノ事流文ノ拙者ニ在リ其後ノ事ニ在リ
- 一 浦ノ事ニ在リ其ノ事流文ノ拙者ニ在リ其後ノ事ニ在リ
- 一 浦ノ事ニ在リ其ノ事流文ノ拙者ニ在リ其後ノ事ニ在リ
- 一 浦ノ事ニ在リ其ノ事流文ノ拙者ニ在リ其後ノ事ニ在リ
- 一 浦ノ事ニ在リ其ノ事流文ノ拙者ニ在リ其後ノ事ニ在リ
- 一 浦ノ事ニ在リ其ノ事流文ノ拙者ニ在リ其後ノ事ニ在リ

十二月

湯新子

寛保三年三月

頼所十一所目住主唐后

長尾藩

治主唐后、在在

子と在

物

工也之志中長母左之東不入中看病跡多も諸苦不任二而、難
在在也故、長尾藩角、余福切中在方、少在と与長尾藩各
以故、嫉妬之心、慮、法外、候、了、相、中、在、法外、候、何、事、也、
中、法、以、長、長、信、節、也、以、信、是、原、也、候、也、冬、候、信、法、長、母、美、對、
年、中、掛、仕、候、在、不、便、也、極、牙、依、也、差、志、中、進、致、中、身、之、

寛保三年九月

加茂右衛門左衛門

武州多摩郡赤松村

百姓長尾信次男

亡人

意伯

亥六月六日、亥年相取
日七月廿日、満計、中、付、い

北意伯候、意、了、我、也、一、冬、江、形、候、候、故、為、度、近、所、以、難、候、仕、事、也、
至、極、之、事、也、進、致、中、付、分、中、亡、人、令、候、也、在、法、外、候、程、形、候、相、候、
涉、據、場、所、也、若、多、事、中、在、在、中、候、也、

亥九月

意伯知事

意伯知事

加茂古市左馬門知事

或明多摩郡赤口村

百姓若尾重次男

・盲人

重信

右ノ親友ニ係リ引渡居村ノ外櫻御酒有付リ此ノ中重信
傍多シク多ク以テ重信一子付テ今一子重信

寛延元年二月

三奉引

一 江戸拂込仕立候准令連ニ布所深川ノ氏重信ノ本據石中ノ地
向後江戸拂込仕立相商ノ者ニ江戸原 本所深川町中ノ地重信接
ニ地ノ一付テ了

右ノ額書定書ニ下書入也

宝曆三年十一月

三奉引

工 女中仕立ニ重信放不中付馬定身准令連重信放不中付町町人
百姓ノ女中重信放不中付町町人相商候也 此ノ中重信放不中付町町人
女中重信放不中付町町人

右通正清其意涉定書之正書

十一月

大伴定書之傳、元文五庚申年五月松平大進將監其心、以出之
前、正作如、強者、先例其外、評候之上、進之候、今、殺相定之
去也

寛保二_五年三月廿七

牧野誠中守

誠中守、以信留并定保二
五年二月代り、正作

大岩誠前守

誠前守、以信留并定保二
五年二月代り、正作

土田山 周情守

石河 玄佐守

玄佐守、以信留并定保二
五年六月代り、正作

島 長門守

長門守、以信留并定保二
五年七月代り、正作

佐野 北隆守

北隆守、以信留并定保二
五年六月代り、正作

依田 和泉守

水野對馬守

對馬守 水野時元 延享元年
二月代り 時元

上野下 伊賀守

伊賀守 伊賀守 延享二年
二月代り 時元

神谷志摩守

志摩守 志摩守 延享二年
八月代り 時元

志摩守 伊賀守

伊賀守 伊賀守 延享二年
二月代り 時元

松浦河内守

河内守 松浦守 延享二年
六月代り 時元

西園典隆守

寛保二年 四月 時元 對馬守 水野對馬守 何

伊賀守 水野對馬守 何

書而 色 相認 延享二年 時元 伊賀守

延享二年

右 時元 書 一 條 延享二年 五月 時元 伊賀守 延享二年
時元 伊賀守 延享二年 五月 時元 伊賀守 延享二年

寛保二年戊午三月廿七日

物野被申守
石河吉保守
水野對馬守

寛保二年五月二十日

湯定書 奥書 名前上儀 中儀下書分

書名多 只之 名前上儀 中儀下書分
肩書下儀 中儀下書分
五月廿九日

湯定書 奥書 名前上儀 中儀下書分
先建方上儀 中儀下書分 其後 湯定書 奥書 名前上儀 中儀下書分
任分 湯定書 奥書 名前上儀 中儀下書分

進如方 湯定書 奥書 名前上儀 中儀下書分
上在名前被申守 湯定書 奥書 名前上儀 中儀下書分
下在名前被申守 湯定書 奥書 名前上儀 中儀下書分

五月

寛保二年六月六日

湯定書 奥書 名前上儀 中儀下書分

湯定書 奥書 名前上儀 中儀下書分

六月

湯定書 奥書 名前上儀 中儀下書分

右湯定書之條 元文忠原 申年五月廿九日 湯定書 奥書 名前上儀 中儀下書分

右の如く出づる紙類先例其外詳綴之上迄、個々の致相定
去也

寛保三十五年二月廿七日

牧野敬中守
石河古伝守
水野針馬守

右の如く書き、名方守書付

九下、所出紙類守名方守古伝守書
個々の如く、名方守書付、如く仕置

二月六日

右の如く書き、條々元文五庚申年五月抄年左邊の如く、
前より、傳由り、紙類、先例其外詳綴之上迄、個々の致相定
去也

寛保三十五年二月廿七日

○ 物産敬中守
石河古伝守
水野針馬守

敬中守の如く、寛保三
十五年六月廿七日、
大星敬中守

宝曆四年四月青山園橋守依田和泉守西園豊後守相

陽定書信帳添ハ為前ハ書物ハ一ハ紙ハ上ハ書物

書面何ハ道ハ陽定書信帳ハ為前ハ書物ハ一ハ紙ハ上ハ書物

戊辰四月廿四日

頼向子加後四代守宝曆二
申年三月廿九日 任付

五月山岡橋守

右依年出後留守延享元
丙午六月廿九日 任付

島長門守

長門守加後四代守延享三
亥年七月廿九日 任付

能勢北後守

北後守加後留守宝曆三
丙午六月廿九日 任付

依田和泉守

水野對馬守

對馬守加後留守延享元
乙未年二月廿九日 任付

木下伊賀守

伊賀守加後留守延享三
亥年三月廿九日 任付

神谷志摩守

志摩年表宛宛宛宛二
己年八月代り

上通後任督守

任督守任督守
申年二月代り

相浦河内守

河内守任督守
宝曆二申年二月代り

曲淵豊後守

右之記
書帳
書加
申年八月代り

四月

右之敬達

上聞相極惟奉行片之外不可有他見也

寛保二壬戌年四月

相本左近右監

眞書
紙相
信
上
下
差
上
下
前
後
中
外
相
極
惟
奉行
片
之
外
不
可
有
他
見
也

沙定書
未書案

右之敬達

上聞相極惟奉行片之外不可有他見也

寛保二年戊午四月

松平右近将監

右科條類典者寛保二年

作之奉行已定並條令之部
取用四例并享保年中之令
條及其時奉 窺書物等是近之例
唱書者之役松平
右近将監 承 作差分
分都類以輯錄之者也

明和四丁亥年五月

古井大納言利里
依田豊前守政次
松平右近将監惟要

右之編達

上聞集之條奉行中之外不可有他見
玉雖一條括書等亦禁之者也

明和四丁亥年五月

松平右近将監武元



